

クロバネキノコバエ科の一種 (*Bradysia* sp.) とは

本種は、ハエ目クロバネキノコバエ科の一種で、露地栽培の秋冬ネギ、春ニンジンの地下部を幼虫が食害する被害が確認されている。

学名 : *Bradysia* sp.

寄主植物 : ネギ、ニンジン

被害状況 : ネギにおいては、秋から早春にかけて幼虫が地下葉鞘部や盤茎を食害する。ニンジンにおいては、5月頃に主に根部の肩や中部に幼虫により根部表面に針でつついたような小さな穴から数mm程度の円形の穴が生じ、周囲の表皮が黒褐色になる。加害を受けると根部が割れやすくなる。秋冬ネギ、春ニンジンともに寄生頭数が少ない場合には、地上部から被害の有無を判別できない。

形態 : 成虫の体長は、雄1.8~2.1mm。雌1.9mm~2.3mm。老熟した幼虫は体長約4mm。

生態 : 上述の寄主時期以外の寄生や被害は確認されていない。冬期の低温時の被害が多く、夏期の生息場所等は不明。



成虫 (左♀ 右♂)



幼虫



幼虫に加害されたネギ



幼虫によるニンジンの食害